

予算審査特別委員会

第75号議案・令和2年度白石市一般会計補正予算(第5号)から第79号議案・令和2年度白石市下水道事業会計補正予算(第2号)の計5議案について、定例会3日目(9月8日)の本会議において質疑が行われた後、議長を除く全議員で構成する予算審査特別委員会が設置され、審査が付託されました。

同委員会(委員長・保科善一郎、副委員長・角張一郎)は、9月9日に現地を調査し、9月11日に審査を行い、すべての議案について採決の結果、全会一致で原案のとおり可決しました。

審査の中で議論された主な点は次のとおりです。

◎令和2年度白石市一般会計補正予算(第5号)

総務費

〔質疑〕 ホワイトキューブNEB化推進改修事業の中の太陽光発電設備設置について、キューブで消費する電力を、不足のないよう常に供給することができるとのこと。

〔答弁〕 キューブ全体の通常の電気が、太陽光で発電できるエネルギーである。

〔質疑〕 重油削減を考えたとき、最も有効な必要性を感じるのが、スパシユランドの温水プールではないかと考えるが、キューブのように検討はされなかったのか伺う。

〔答弁〕 国の補助金の要件として、重油などの消費量が基準1次エネルギー消費量から50%以上削減すること、また防災拠点の施設になっていることがあげられる。

スパシユランドの場合、削減エネルギー消費量の要件となる数値を満たすには、給湯に係るエネルギー消費量が大きく、既存のボイラー熱量を電気式の給湯器に改修するとなると、数十台から100台程度が必要と見込まれる。

このことから、スパシユランドについては機器の費用のみでなく、電気設備の大規模な改修、設置場所、電気料金、保守費用のランニングコストが現在の2倍から3倍になることが想定されており、現実的に難しいとの検討結果になっている。

衛生費

〔質疑〕 オンラインによる妊産婦等相談環境構築業務委託料が計上されているが、妊婦以外にどういった方々の相談を想定されているのか、また新型コロナウイルス感染症が落ち着いた後も継続していくのか伺う。

〔答弁〕 現在のところ想定しているのは、妊婦、出産したばかりの産婦、就学前のお子さんなど、常に保健師が相談に応じている方、また、総合福祉センターにもオンライン環境を整備する予定であるため、家庭児童相談員が相談などに応じている要支援家庭の親などを想定している。

オンラインによる相談は、将来的には保健師を交えた上でグループなどを作り、子育てに関する思いや苦勞を共にする親同士が話し合える場としての実施なども想定しており、新型コロナウイルス感染症が落ち着いた後も引き続き継続していく考えである。

◎令和2年度白石市下水道事業会計補正予算(第2号)

〔質疑〕 南町二丁目地内の汚水管移設工事として、工事請負費が計上されているが、何メートルぐらいの工事になるのか伺う。

〔答弁〕 この工事は、下水道本管の一部が民有地内に設置されていることから、支障となる区間の本管を移設するもので、移設延長は全体で37メートルとなっている。



予算審査特別委員会の現地調査(ホワイトキューブ)